**令和４年度第２回上川圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会　議事録**

日　時　令和4年（2022年）６月１６日（木）　９：30～11：00

場　所　旭川市障害者福祉センターおぴった　２階会議室

出席者　別添「委員名簿」のとおり

傍聴者　なし

次　第　１　開会

　　　　２　あいさつ

　　　　３　今年度の地域課題について

　　　　　　・障がいのある方と地域住民の相互理解と定着

　　　　　　・障がいのある方も自由に移動できる地域づくり

　　　　４　障害者への配慮に係る実施事業について

　　　　５　その他　※議事なし

　　　　６　閉会

議事録

　樋口主査　　　）　本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

　　　　　　　　　定刻を過ぎましたので、これより今年度第２回の「上川圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」を開催いたします。

開催にあたり、上川総合振興局保健環境部社会福祉課長より一言ご挨拶をいたします。

　影山課長　　　）　（開会挨拶）

　樋口主査　　　）　ありがとうございました。本日用務多忙により、佐藤委員は欠席となっております。酒井委員については少し遅れてくると連絡を受けております。

それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

（配布資料の確認）

また、一つお願いだったのですが、発言の際は、心持ちゆっくりとはっきりとした発言していただけますようご協力をお願いします。

それでは、議事に入っていきたいと思います。条例第46条に基づき、この委員会を総理する五十嵐推進員に、この後の議事をお願いします。

五十嵐推進員　）　皆さんおはようございます。さっそく内容に入っていきたいと思います。前回の会議で、皆さんからご意見いただいた地域課題についてだったのですが、「障がいのある方と地域住民の相互理解と定着」と、もうひとつが皆さんから「移動」と言う話をたくさんいただいていたので、「障がいのある方も自由に移動できる地域づくり」という二つで考えております。なにかご意見ございますか。

※意見なし

ないようでしたらこの二つの地域課題で進めていきたいと思います。

　　　　　　　　　前回の会議からあまり期間を置かずに皆さんにお集まりいただいたのは、７月２９日に開催予定の会についての内容の確認と、前回の会議で皆さんからご意見いただいた中で、事務局の方でまとめさせていただいたので、皆さんに確認いただきましてご意見いただけたらと思います。資料の３ページ目にございますが、タイトルはあまり難しくなく、一目見て興味を持ってもらえるような「知ることからはじめよう～心のバリアフリー」という事務局案として載せています。柴田さん（旧委員）からお話のあった「カミバラ」というのは、もうちょっと取っておこうと言うことで、今回は、「知ることからはじめよう～心のバリアフリー」としていますが、大丈夫でしょうか。会の目的である、令和６年から差別解消法が変わりますということを知ってもらう、そして障がいのある方の当事者の思いだったり、町のことを知ってもらって、心のバリアフリーに繋げていこう、というようなタイトルにしております。もしこっちの方が良いよ、というタイトルがありましたら、ご意見等いただけたらと思います。

日時としましては、令和４年７月２９日（金）午後１時半から2時間ほど。場所は振興局になります。内容ですが、「合理的配慮・障害者差別解消法について」というところではありますが、ここは酒井委員にお願いできたらな、と思っております。これまでも差別解消法についての話をいただいていたところですが、今回は、「参加された皆さんであればどう対応しますか」など、投げかけて考えていただくようなものができないだろうか、とご意見を酒井委員に相談できたらなと思っております。次に、当事者等の声ということで、これまでも皆さんに相談させてもらっていたのですが、問題はたくさんあって生きづらさもある中で、今回は時間の制約等もありますので、岩井委員に聴覚障害についての普段の生活だったり、思いをお話いただけたらなと。片山委員にも当事者の家族としてお話しいただけたらと。畠山委員についても、お話しいただけたら、ということで、身体も含めてですけど、知的障害であったり、目に見えない障害についての話をみなさんにお話しいただけたらと思っております。時間配分としても、お一人10分くらいでお話いただいて、その中で参加者から質問等あればお話しいただけたらなと思っております。ここで、簡単にお話をいただくというのも一つなんですけども、今年度のシンポジウムではないですが、もしよければ山川委員に進行をお願いしたいなと考えていたのですが、いかがでしょうか。

　畠山委員　　　）　賛成です。

　五十嵐推進員　）　まずは私たちの方で、地域の話とか、当事者の話とかについてお話した後に、運輸局さんのほうから、移動であったり、地域のバリアフリーについて、これまでの取組等もございますので後半にご紹介いただいて、今回の会を終了、という形で考えております。今話した中で、まだ変更できますし、内容も変えられるのでご意見等いただけたらと思います。

この会をやる意味・趣旨というのは、参集というところに市町村の役場もありますが、観光や旅客業関係の方達にお伝えして、そこからまたさらに広げていくということで、前回影山課長からもお話のあったように、広く地域に知ってもらう取組ということをしていった方が良いというご意見いただいていますので、欲を言えば、いろんな人に参加いただきたいところではありますが、コロナが大分落ち着いてきて、観光業等も少しずつ動き出していて、７月後半はお祭りシーズンでなかなか皆さん参加が難しいかなと思ってはいるのですが、そういった中で少しでも進んでいただけたら良いなと思っています。一人一人ご意見や質問いただいてもよろしいでしょうか。

岩井委員　　　）　意味を取り違えていたら困るので確認させてください。私が今考えている地域の取組、障害者にとって暮らしやすい地域の取組で、自分が体験したことを通して自分が感じることとか、今取り組んでいることとかをお話しするのでしょうか。

　五十嵐推進員　）　そのような話を会の中で参加者の方にお伝えいただけたらと思います。今ご質問させていただいたのは、会の内容と、岩井委員の話を10分ほどいただく等、そういう点でご意見あればまだ変更できるので、何かありますか。

　岩井委員　　　）　10分間お話しするのは、7月29日当日ですか。今この場で話すのかと思いました。（笑）一人一人障害の種類も違いますし、それぞれの立場でお話しするということは、私はすごく良いと思います。

タイトルについては、「知ることからはじめよう」というテーマは良いと思いますが、「心のバリアフリー」もう少し柔らかい表現が良いのかなと思います。「心の」というと、ハードルが高いような気がします。

　林委員　　　　）　前回の会議や、ZOOMの時に皆で話していたことができてきたんだな、と。今の話を聞いていて、知らないから、向こうもどう対応したら良いか分からないから断ったこともあったかもしれないので、こういう風にしたら良いんだな、と思ってもらえたら良いなと思います。

　　　　　　　　　　タイトルが、「知ることからはじめよう～心のバリアフリー」。良いかなと思っていましたが、今、岩井委員が「心の」と言ったらハードルが高いのではないかと話されていて、それもそうかもしれないと。じゃあ何が良いかなと思ったのですが、思いつかなくて、皆の意見聞きながらもうちょっと考えようと思います。

　館石委員　　　）　内容的にこの感じで良いと思います。最後に五十嵐推進員がおっしゃっていたように、開催時期がお祭りシーズンに当たるので、どの程度の人が参加されるのかなという部分はあります。せっかくやるので、多くの人に知ってもらえたらということを考えたら、会場でやるところを録画等をして、後でネットとかで見れたりだとか、そういった手段を加えたら良いのかなと思います。タイトルについては皆さんおっしゃるとおり、キャッチーな言葉が浮かんでこないのですが、もう少し柔らかい表現の方が良いのかなと思います。

　山川委員　　　）　きちんとした進行ではなくて、そういうものを目指しているから名前を挙げてくださったのかなという風に捉えていました。この案内文も今までよりも柔らかくなってきているイメージがあっていいな、という風に思ったのですが、やはり「心の」という言葉が、皆さん引っかかるとおり、気持ちではやろうと思っているけど具体的にはどうしたら知らないからできない、と言うのが実際のところなのかなと思います。ただ、それを知ることでできるよね、と。こうしてくれたら良いな、と言うことが伝わって、こうしたらいいのか～、というのが伝わるというのがこの会の目的だと思うんです。そうしたら、「心の」ではなくて、「バリアフリー」そのものなのではないかなと思って聞いていました。バリアフリーそのものを始めよう、スタートしようという、そんなようなことが伝われば良いのではないかなと思うので、誰か上手に言ってください。

それから、館石委員からお話しあったように、より多くのということで、ハイブリッドはできないのかなと思いました。ただ、ハイブリッドってすごく職員の人員を配置するなど手がかかりますよね。であれば、社会福祉課のホームページを使って、動画での配信で必要な方々が見られるというようなことはすごくいいな、とお話を聞いて思っていました。

もう一点、柔らかいチラシもセットで配布するとより効果的かなと、感じました。以上です。

　畠山委員　　　）　今、最後に言ったことを僕も思っていて、今日この委員会で話し合われたことをもう少し具体的にイメージして、「観光・旅客業関係事業者 様」だけだと、全くイメージができない、堅くて、何かやるんだね、で終わってしまうと思うので、もう少し柔らかくイメージできるようなチラシを一緒に入れていただくと、なんとなくでも皆何か困っていることがあるんだね、とイメージを持っていただけると思います。先ほど林委員からお話のあった、知らないから断られる、知らないから断ってしまうという両方の困り感を解消できると思うので、イメージができて、じゃあ聞きに行こうかと思っていただけるチラシをつくっていただけたら良いなと思いました。

　　　　　　　　　　先ほどからお話しに出ている、当日のハイブリッド方式についてはお金と技術があればできると思いますが、普通にライブ配信するのと、それを録画しておいてわかりやすいYouTubeとかで流すのが良いなと思います。そんなに人も集められないと思いますので、とりあえずは市町村の担当の方、どちらかというと障害の制度を支援する・制作する側の人たちと、実際に障害の持った方・利用する側の人たちを集められる位で良いのかなと思います。

　　　　　　　　　　僕は、知的障害というカテゴリーでお話しすることと思いますが、やっぱり知的障害と精神障害が一番イメージしづらいところで、僕も説明しづらいところではあります。身体障害だと、体験してみましょう、ということができますが、知的障害と精神障害はなかなかそれができない障害なので、どうやって説明したらイメージつくかなと考えているところです。開催の時期についてはお任せします。

片山委員　　　）　今回、当事者の親としてお話をさせていただくということですが、親としてはいろんなことを憶測で、すみません本人じゃないので、たぶんこうだろうなという困り間は分かるんです。せっかくであれば、本当なら当事者がこの場に来て話していただくのが一番だと思いますが、精神障害だとか、発達障害の方や知的障害のような障害の方って、この場に来ること自体が難しいのかなと。人前で話すって言うのはとても刺激があったり、いろんな苦労があって、なかなか来ることが難しいのではないかなと思っています。なので、今回でなくても、そういう方達の当事者の話・困り感というのを聞いていただくのであれば、リモート参加をしていただくのが良いのかなと思います。そういう刺激がない中で、自分の気持ちや困っていることを伝えていただくというチャンスがあれば良いなと。やっぱり我々親として一番勉強になるのは当事者の話を聞くことがすごく勉強になるんです。どんなことに困っているのか、どんな風に感じているのか。それがなかなか伝えられないのが知的障害であったり、発達障害の方だと思います。

　　　　　　　　　「差別解消法が変わります」というチラシをよく見ますが、車いすの方はスロープを付けて段差をなくしましょう、とか、聴覚障害の方には資料は読み上げて説明しましょう、とか、こういうのが合理的配慮ですよという具体例があっても、知的・精神・発達障害の方のどんなときにどういう対応を、というのがなかなか難しいと思うんです。一人一人違うと思うので。もう少し分かるようにしたら、ハードルが下がるというか、「知ることから始めよう」ということがすごく大事で、どうしたら良いのだろうと思う前に、知る、ということが大切なことだと思います。今回はこのメンバーでやるという機会を作っていただいたので、私も当事者の親として、日々感じていることなどをお話ししたいなと思います。

酒井委員　　　）　会場間違えまして大変遅れました大変申し訳ございません。途中からの参加となってしまったので、議論の経緯を把握していないところではあるのですが、「知ることから始める」というのは私個人としては良いことだなと思います。法律が作られていて、法律というのは社会的な批判が徹底されているというと言うことにはなるんですけども、法律で決まっているからと押しつけるという形にならなくても、きっと当事者の方の声・どういったことをお手伝いできるかというのが分かれば、助けていただける方は多いと思うので、代表として私の方からの説明をご予定されているかと思うのですが、私の説明より当事者の声に焦点が当たるようにしていただけたら良いのかなと思います。

川野委員　　　）　まず、前回の協議を元に、事務局の方でお話をいただいてここまでまとめていただけたことに感謝いたします。

「知ることから始めよう」ということで、先ほどから皆さんのご意見の中に、「心の」というのが少し重たいなと言うことだったのですが、「バリアフリー」ってすごく使いづらいですよね。バリアを取り除くということですが、それに付け加える言葉を考えてしまうと思います。皆さんの意見を聞きながら私もずっと考えていたのですが、参考までですが、「みんなでバリアフリー」というのはどうかな、と。タイトルについては以上です。

参集のところですけども、「市町村」と書かれていると思いますが、障がいのある方に対してのバリアフリーだとか、心のバリアフリーもそうですが、合理的配慮というのは例えばインフラだとか、いろいろと関わってくると思うので、私の要望としては、市町村は保健福祉課の担当者ばかりでなく、例えば施設整備課だとか建設課だとか、公営住宅を担当しているだとか、インフラに関係する課や、総合的なまちづくり政策を担っている部署も含めて参集していくのが良いのではないかと思いました。

最後になりますが、動画配信・チラシ・リモート参加だとか、皆さんから素晴らしい意見が出てきてさすがだなと思っていたのですが、リモート参加の場合は、リアルで参加されているのと近い感じになるのではないかなと思うのですが、「こないだのイベントの動画を皆さんご覧になってください」と言って動画を配信しても、なかなか見る機会がないと思うんですよね。まして、YouTubeなんか見たことがないわだとか、YouTubeは危ないと思っていらっしゃる方も中には多いので、動画をDVDなどに落として、ご案内したところへ「この間はこのような内容で、大変参考になると思うので一度お目通しください」と送付するのも一つの手かなという風に思いました。

安井地域づくり

コーディネーター）　事務局の打ち合わせも参加させていただいていました。タイトルについてはすごく悩みながら、何がいいんだろうねと考えていたところで、割と制度とか文言として「心のバリアフリー」という言葉が使われることが多いので、一旦その言葉を使ってみようかというのが実は副題としてついた経緯だったかなと記憶しています。個人的には、「バリアフリー」と言葉は各自のイメージが違うものなので、今回こちらが伝えたいことをちゃんと伝えていかなければ、それぞれの思いでこの言葉を取ってしまうのだろうな、と。難しいなと思いながら、何も案も思い浮かばずにいたところでした。

参集範囲のところでは、ご意見ででていた市町村といったところで、障害福祉課の担当の方だけでなくて、広く知ってもらうという意味で、まちづくりを担当している部署であったりとかも知ってもらうのは良いのではないかと思いました。また、障害福祉サービスの方でも、移動に関係している、サービスを提供している方達にもここは知ってもらっても良いのかなという思いを持っています。

余談ですが、昨日別の打ち合わせの際に、「最近、障害福祉を担当していたりサービスを提供している方達よりも、残念ながら一般企業さんの方が個人個人に対してどんな配慮が必要なのか考えてくれる」と、教育の現場の方とお話をしていましたので、福祉の方にも改めて差別解消法だとかちゃんと知ってもらうのは大事だな、と考えていたところです。

松尾地域づくり

コーディネーター）　皆さんのお話を聞かせていただいて、タイトルってすごく難しいなと。そこがバンっと目に飛び込んできたり、引きつけられる方が良いなということでもう少し柔らかさであったり引きつけるタイトルというところで考えていけたらと思います。

　　　　　　　　　　五十嵐推進員の方から最初にお話ありましたが、岩井委員、片山委員、畠山委員からお話をいただくというところで、どちらかというとこういった対応を受けて困ったよ、というよりは、こんな時にこういった対応を受けて良かったな、嬉しかったな、といったところを話していただけた方が、観光の方とかも、渇いてしまわないというか、こんなことでもお手伝いできるんだ、というところに繋がると良いのかなと思います。

木全地域づくり

コーディネーター）　感想になりますが、事務局の打ち合わせに参加させていただいたのですが、確かにタイトルはなかなか難しいなと言う思いもありまして、「心のバリアフリー」という言葉は、言われてみればざっくりしていてイメージがつきにくいところではあるので、タイトルって大事なので、見て、参加してみたいなと思ってもらえるような、キャッチーな言葉を皆さんで話し合えたら良いなと思いました。

　畠山委員　　　）　僕は、「心のバリアフリー」という言葉は好きなのですが、今回の企画とはズレがあると思います。「心のバリアフリー」は、どちらかというと差別や偏見とか内面的な気持ちの部分を分かってほしい、こういう風にしてほしい、ということに使うかなと。今回の場合は、知識として具体的な方法だとか、こういう風にしてほしいと言うことなので、「心のバリアフリー」とはズレているかなという気がして、単純にそこに違和感を感じています。

　加茂専門官　　）　７月29日の会の打ち合わせ出席できず、今資料を拝見したのですが、タイトルは素晴らしいと思っております。今、畠山委員がおっしゃったこともよく分かりますし、このセミナーの時に両方のことをお伝えしたほうが良いと思いました。どうすれば良いのか分からない、ということの前に、対応しようと思ってもらえるかどうか、という心の問題があると思うんです。全く経験の無い方がやってみようと思ってもらえるかどうか。要するに、やってみようと思った後に、具体的にどうしたら良いか、と言うことがあると思うので、そこは両方お伝えするべきかなと思いました。

　　　　　　　　　　タイトルですが、先ほど山川委員のお話を伺って、ちょっと考えたのが、「知ることから始めよう～あなたでもできること」と思ったのですけど、何のセミナーだか全く分からないので、結構良いかなと思ったのですが、このタイトルだけ見てこれは何の話を聞く会なのかわからないな、とそこを今考えていました。そんな感じで、何をしたら良いのかを伝える会ですよ、ということが伝われば良いのかなと思いました。

　　　　　　　　　　酒井委員のお話を伺いまして、昨日タクシー会社の社長さんとお話をしていたのですが、面倒なことと、お金がかかることはできればやりたくない、と思っているということが本音だと思います。ですので、これに対応しなかったらどうなるのか、最終的には罰則もあるんですよ、ということが経営者の方や上層部の方へお伝えした方が良いのではないかなと思います。できるだけコストはカットしたいと経営者・上層部の方は思っていらっしゃると思うので。あと、手間が増える、宿泊施設でしたら従業員の方に覚えてもらうことが増えるということで、それをできるだけ減らして効率よくしたいと思うのが、民間企業・営利企業の方だと思いますので、その手間をかけて従業員の方に覚えていただかないといけないことなんですよ、ということをきちんとお伝えした方が良いと思います。

タクシー会社の社長さんとお話をしたと申し上げましたが、その方は、上川のハイヤー協会の会長さんなので、この日付良かったら空けておいてください、とお伝えしました。以上が、タクシー関係のお話です。また、バス協会、シティーホテル連合、日本旅客協会の道北支部の団体のトップの方にお伝えしたいなと思っております。そういった業界の発言力のある方々に来ていただければ、それから先やりやすくなると思いますので、そういう方に来ていただければと思っています。きっと、その組織の中で館員の方々にお知らせしていただけると思いますので、興味のある社長さんなり、役員の方がここに来ていただけたらなと思っております。

また、国土交通省の取組を紹介する時間も設けていただいてありがとうございます。「バリアフリー基本構想等」については、自治体さんが取り組む話なので、もし自治体さんからあまり出席していただけないようでしたら、内容を変えるなど、札幌の担当と相談したいと思います。

WEBの活用については、やっと北海道運輸局でも、YouTubeのチャンネルを持てるようになりまして、そこに映像をおいておくことは可能です。やはり、「見ておいてくださいね」だけだとなかなか見ていただけないと思うので、おいておきますけどそれを何か別な機会に、説明会、バリアフリー教室だとか、体験会といったときに、見ていただくとか。それ自体を見ていただくというのはなかなか難しいことだと思うので、後で活用できるようにWEB化しておくという位に思っておいたらどうかな、と思いました。

　五十嵐推進員　）　最終的な思いは皆さん同じだと思うので、どこから進めていこうかな、というのが一番悩ましいところなのかなと思っていました。タイトルに関しては、「心のバリアフリー」というのはちょっと趣旨が違うとか、引っかかるかなとか、またはもっと具体的な「知ることから始めよう～具体的なバリアフリー」か。川野委員からお話のあった「みんなでバリアフリー」なのか、「みんな の バリアフリー」なのか、そういう風にいろいろあるかなと思っていました。先ほどコーディネーターからの話しあったように、学校の授業も「心のバリアフリー」という授業があります。運輸局さんも、観光の方で「心のバリアフリー認定制度」というようなものがあったり、役所関係では「心のバリアフリー」が使われている書類が多いので、民間の方達にも通じる、スンと入るのかなというようなニュアンスもありましたけど、大きなこだわりはないので、変えることはできます。が、とりあえずはまず、「知ることからはじめよう」ということで、私たちがまず一般の人に伝えるということよりも、私たちもいろんな情報を知らなきゃいけないのかなと思っていて、こういう風にやることによって、観光であったりいろんなところからアクションを起こしていただいて情報を返していただきたいなと。つながりをどんどん作っていきたいなと思っているので、そういうことから言葉にあまりできないですが、みんなが当たり前のように暮らしていけるようなものとなったときに、「バリアフリー」ですとか、「心の」という言葉があったほうがわかりやすいのかなというのもあります。もうすぐ案内をかけていかなければいけないので、最終的なゴールを考えて行けたらと思っています。

　　　　　　　　　　話の中で、事業者の意見というのも先ほど加茂専門官からあったように、コロナ禍の時は結構バリアフリーとか、障がいのある方や高齢者の方に関心を持ってくれる事業者の方も多かったんです。それは、人が来ないからそういった方達も裾を広げていかなければいけないから、やれることやるよ、というような事業者の方も多かったのですが、ここから始まるのが天狗業者になっていって、何もしなくても客が来るという状態になるのかなと思ったときに、障害や高齢は二の次になってしまうのかなという風に懸念しています。面倒なこと・お金がかかることということは事業者は嫌だよ、というのはまさにその通りで、国の辞令があったり、助成金が出るからこの研修会に参加してください、というのは積極的に来るんですけど、見えない人件費がかかっているとか、勉強したからといって何に繋がるのか、というのは見えないので、言ってしまえば「見えないバリアフリー」なのかもしれないですが、人の優しさという部分に関して、直接的な売り上げにどう繋がっているかというのが実感に皆さんあって、そこをどう伝えていかなければいけないのかなということを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。その中で、YouTubeを活用とか、動画を活用とか、SNSを活用していくと言う部分で、こういった大きな会を開催しなくても、当事者の声というところで、出演がOKなのであれば、いろんな人たちに「困りごとは何ですか」と聞いて「こういうことに困っています。」というのをいっぱい集めて、動画をつくってしまって、それを発信していったりだとか、そうするとお金がかからないし、動画編集の手間がかかるくらいのなので、この会が終わった後になってしまうかもしれないですが、そのような発信方法など、一個ずつできることを出し合って、挑戦してみるということも一つの普及活動としてアリなのかなと思っています。ハイブリッドという話もありましたが、手間もかかるしそこに対する機械の操作も必要になるので、今回は記録を残すというのと、その後に落ち着いたタイミングで見てもらえるように、動画は撮影したいなと考えています。それをYouTubeで一般に公開するか、非公開にするか選べるので、非公開にした場合はそのURLをクリックした人しか、またはQRコードを読み込んだ人しか、知っている人しか見られないようにできるので、それをこれまで関わった人、またはこれ方関わるであろう人たちに、こういったことをやっていますよ、と案内がしやすかったり、チラシにも何かのタイミングで開催しましたと、QRコードを載せておくと誰でも見ることができるので、すごく良いかなという風に思います。1時間、2時間の動画をべらぼうに流すのではなく、編集をして、合理的配慮とはなにかという部分だけ、当事者の声、国交省の取組という風にしっかり分けてあげて、見たいものを見れるようにするというのも一つかなと思いました。

　　　　　　　　　　タイトルという部分に関して決めなければいけないと思うので、今挙がったものでいうと、「あなたでもできること」だと何の会か分からなくなるので、「バリアフリー」という言葉は入れた方が良いのではないかなと思います。それを「心」にするのか、具体的な言葉にするのか、「みんなで」といれるのか、今回の趣旨にどれが一番ぴったりくるのかなという３択くらいにしたいと思います。

　岩井委員　　　）　皆さんの意見を聞きながら思ったのですが、一番良い言葉というのはなかなか浮かんでこないのですが、最終的にどうなりたいかを考えたときに、障害のある人もない人も笑顔になれたら良いのかなと思いました。なので、テーマを見たときに、この話を聞くと、最終的に自分も周りも笑顔になれる、心地よい空間が作れるという風にイメージできるようなテーマだと良いのかなと思いました。

　五十嵐推進員　）　ズバリ何が良いとかってありますか。

　岩井委員　　　）　例えば、「笑顔になれるバリアフリー」とか、「誰もが笑顔にバリアフリー」とか、そういった方が親しみやすいかなと思いました。もっと良い言葉があるのかもしれないですが、イメージとしてはそんな感じかなと思います。障がい者だけがではなくて、障害を持っていない人もいろいろどうしたら良いか分からなくて困っていると言うこともあるので、お互いが歩み寄ることで、笑顔になれる、ということがイメージできるテーマだと良いなと思いました。

　五十嵐推進員　）　皆さんいかがでしょうか。「笑顔になれるバリアフリー」だったり、タイトルみたいになってしまっているんですけど、「みんなが笑顔になれるバリアフリー」とかも良いのかなと思いますが、今のご意見を聞いて思いついたとかありますか。

　林委員　　　　）　全然関係ないのですが、「知ることからはじめよう～バリアフリーinカミバラ」とかどうでしょうか。「バリアフリー」に「カミバラ」って、バラバラくどいかなと思ったけど、柴野さん（旧委員）が頑張ってつくってくれたのもあるし、役所の人とかも来るし別に使わなくてもいいんですけど、せっかくだからどこかに「カミバラ」を出したいな、と思いました。

　五十嵐推進員　）　「カミバラ」と入れてしまうと、今度は「カミバラ」とは何だというところも説明していかなければいけなくなるので・・・。実は今回の内容とは別になってしまうのですが、少し考えていたのが、「カミバラチャンネル」をYouTubeで作っちゃえば良いのかなと思っていたんです。皆さんが良いよと言っていただけるのであれば、こういう動画を流していけたら、YouTubeのチャンネルをやるのであれば必ず作らないといけないので、「カミバラ」は、実はそこで使おうかなと考えていました。

　林委員　　　　）　さっきの話だと、ポスターみたいなのは難しいという話だったと思うのですが、例えば、わかりやすい大きな表示があると良いです、とか、ゆっくり話しかけてくださいとか、後ろから言わないで正面に立ってゆっくり話しかけてくださいとか、いろんなことの短い動画を作っていけば、「カミバラチャンネル」で発信して行けたら良いなと思うので、タイトルに使わなくても良いです。

　五十嵐推進員　）　YouTubeのチャンネルができたときには、まず主演で企画班として、または自分で出演するということでよろしくお願いします。

一旦、タイトルは置いておいて、この会をスタートして、今までちょっと堅苦しいタイトルでいろいろやらせていただいていたのですが、もっと地域に浸透させていくためには、欲を言えばこういった文書もそうですが、ポスターやチラシがあったらもっとわかりやすいよね、と言うのがあるんですけど、時間がないので、まずはちょっと「カミバラ」は保留にしておきましょう。結論的に皆さんの思いというのは、私はずっとこの「差別解消法」という法律があること自体が納得いかない・意味が分からないと思っていて、皆普通に生活しているだけなのに、差別されているんだ、という解釈をこの制度ができて初めて、障がい者というのは差別される人たちなんだと知りました。私たちも、どう伝えていったら良いのかが分からなくて、当たり前のことなのになんでだろうというようなことってきっとあると思うので、そこを相手に伝える難しさというところがあるので、ひとまずタイトルは、「笑顔になれるバリアフリー」ということで、良いのかなと思います。そこにきっとすべての思いが詰まっていると思います。知ってもらって、障がいのある当事者も、お店の方達も、障害のない方も、みんなが笑顔になれる地域づくりという部分から、このタイトルでいかがでしょうか。

　　　　　　　　　※賛同の声

　　　　　　　　　　ありがとうございます。堅苦しい会というのももちろん大切なんですけども、今回は困っている人の真剣な相談ではなく、たくさんの人に気軽に知ってもらいたい、伝えていきたい、ということで、今回は山川委員に盛り上げていただきながら話を振っていただけたらなというのと、酒井委員の方から「差別解消法」が令和６年に改正されるということもあるんですが、今回は動画を撮る関係もあるので、参加者の人に「こんな時あなたならどう対応しますか」など、すこし投げかけてもらうようなご説明をいただけたらな、というのが事務局の思いです。大体20分くらいで皆さんにご説明いただけたらなと考えておりますが、いかがでしょうか。よろしくお願いします。

　　　　　　　　　　話をまとめますと、動画を撮影して、非公開として公開して、事務局の方々に確認していただいて、大丈夫であれば、参加できなかった人たち、このどんな人たちに案内するのかというのは、皆さんの周りにいる人たちでも全然構わないと思います。今回の会は公の会なので、動画も良いのであれば公開にしたり期間限定公開にしてしまっても良いのかなと思いますが、そういった風に周りの人に広めていってもらって、チャンネル登録をしてもらえたら「カミバラチャンネル」もうまくいくのかなと思いますが、少しずつ一歩ずつ進んでいけたら、バリアフリーを伝えていけたら良いなと思っています。運輸局さんでもチャンネルがあるよとか、電気軌道さんでもチャンネルがありまして、そこに車いすでバスに上がる映像とか載せていただいたりして、一生懸命やっていただいている企業さんもたくさんあるので、そういった企業さんと手を組んでできたら良いなと思います。個人的な願いではあるのですが、もし時間に余裕があれば、館石委員や林委員にもお話をいただけたらと思っていて、前回の会議で、林委員が電気軌道はすごく乗りやすいけど、道北バスはちょっとな、という話があったのですが、いろいろと調査をしてみた結果、バリアフリーとか、そういったことに興味が無いようです。そういった興味が無い人たちをいかに障がいのある方や高齢者の方達に興味を持ってもらうか、といったところが暮らしやすい地域に繋がっていくと思うので、そういったところがあって当然でしょうし、皆さんと一緒に、周りの方々と連携して、笑顔のバリアフリーになっていけたら良いかなと思います。

　　　　　　　　　　今のようなイメージで、「笑顔になれるバリアフリー」を開催します。動画を撮影させていただきまして、後日掲載する。市町村に関しては、川野委員からお話あったように福祉課だけではなくて、他の課にもご案内できる仕組みがあれば良いなと思っています。観光関係については、加茂専門官にもお手伝いいただいて、観光コンベンション・ホテル・タクシーそういったところにお声かけいただくという形で進めて行きたいと思いますがよろしいでしょうか。

　　　　　　　　　　ひとまず今日の議題についてはすべて終わりまして、まだ時間がありますがその他という部分で何かありますか。

7月29日はこの会だけをやる形ですか、それともまた別でちょっと集まって打合せ等しますか？

　影山課長　　　）　酒井委員をはじめとした当日発言いただく方は、本番前の若干打合せをしたいので、事前に集まっていただきたいと思っています。

　五十嵐推進員　）　集合時間等については、事務局からまた改めて皆さんに連絡いただく形で良いですか。

　樋口主査　　　）　はい。

　影山課長　　　）　当日発言される方以外でも、ご都合ついて参加いただける方がいらっしゃいましたら、内容的には事前打ち合わせとなりますが、委員会というような内容でご案内させていただくので、参加いただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

　五十嵐推進員　）　他に何かありますか。内容でしたら事務局にマイクを返したいと思います。

　樋口主査　　　）　7月29日については、あまり時間のない中ですが、これから案内文等を作成して、是非参加してくださいというような形で周知していきたいと思います。

それでは、第2回目の地域づくり委員会はこれをもって終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。